



14:14 琵琶湖を望む



14:33 5合目を下るトレイルランナー



15:10 イペキジャコウソウ だろうか



15:11 コイブキアザミ



15:58 ロッジ山の本館

10月15日(木) 5:10 起床。5:30 持参のパンなどで朝食。6:05 ホテルチェックアウト。6:30 始発の帝産湖南交通バスに乗り、7:00 終点の上桐生バス停・標高160m着。

ここには高校同級生のM君が5年半前から始めて652回、昨年196回登ったという金勝山(こんげやま)がある。金勝山は多くの山道が巡らされており、最高峰は龍王山605mと低山である。多くの史跡とともに花崗岩の巨大・奇岩があるのが特徴で、その中でも天狗岩は象徴的



金勝山地図/近江湖南アルプス自然休養林管理運営協議会、リーフレット、2017年発行

なもので、リーフレットの表紙写真にもなっている。

入山届をポストに入れ、飲料水、昼食用パン、保険証など貴重品を入れたサブザックを背にして、リュックはバス停のテーブル・椅子に置き、7:05 登山開始。舗装された林道を歩き、7:17 オランダえん堤へ。一帯は檜の森林だったが奈良から平安時代に伐採され奈良・京都の寺院・仏閣の造営に使われたために、明治に至るまで大洪水が度々起こり、下流は大きな被害を受け続けたという。そこでオランダの砂防工事技術者ヨハネス・デレーケの指導でえん堤が造られ明治 22 年に完成した。このえん堤は割石積えん堤（切石布積みアーチ式えん堤）で、我が国最古のものといわれている。7:30 逆さ観音の解説板。この辺りの樹林帯を探したが、残念ながら逆さ観音の岩を見落とすとしたよう。観音様が深く刻まれていなかったためだろう。7:47 新名神高速道路のトンネルを抜け、さらに樹林帯の涼しく心地よい林道を進み、8:26 出合・交差点。



5:43 ホテル 21 草津



6:08 草津駅



7:17 ヨハネス・ゲレーテ像とえん堤



7:19 オランダえん堤



7:30 逆さ観音の解説板



8:00 倒木のある山道



8:09 流水でえぐられた道



8:26 出合の標識

時々水の流れにも出会いながら、粘土状のぬかるみがある坂道を上り、8:59 狛坂磨崖仏・450m。解説板によると、磨崖仏は縦約 6m・横約 4.5m の花崗岩に三尊像が刻まれている。須弥壇上の中央に宣字座に座る如来像、両脇に蓮華座上に立つ菩薩像を配し、その脇および上部に七軀の立・座像が配されている。奈良時代後期に制作されたものと考えられるという。山道の直ぐ近くに巨岩・奇岩が多くなった。また、事故で救助を求めるときに所在場所を伝えるための番号の表示板（コールポイント）が設置されているようになった。上り・下りを繰り返す、9:48 白石峰に着。十数人の者が休息・談笑をしている。また、4 山道の交差点となっており、先程写真撮影してもらった 2 人組がおり、ここでも撮ってもらった。先程は下っていたのに、何故、再度上ってきたのか尋ねると、グループでの金勝山登山の幹事で計画のために、多くの道を下見しているとのこと。



8:39 ごろごろ岩の登山道



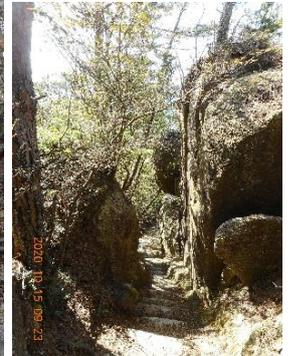
8:49 流れる水の脇の登山道



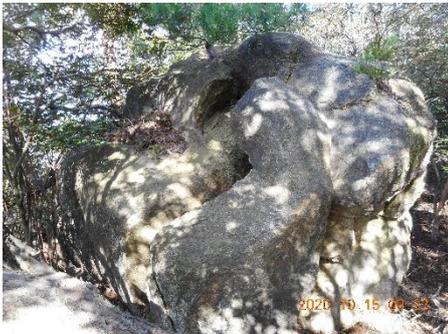
8:59 狛坂磨崖仏



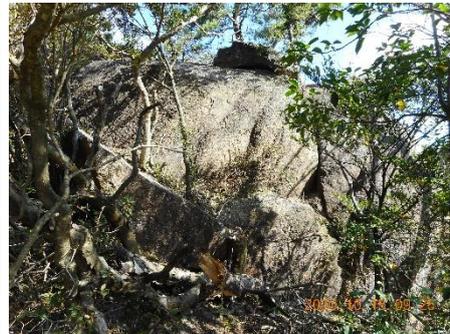
9:14 ごろ岩道での筆者



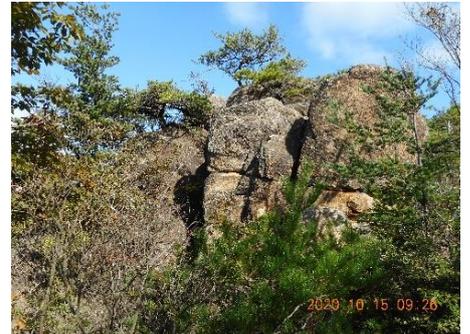
9:23 巨岩に挟まれた道



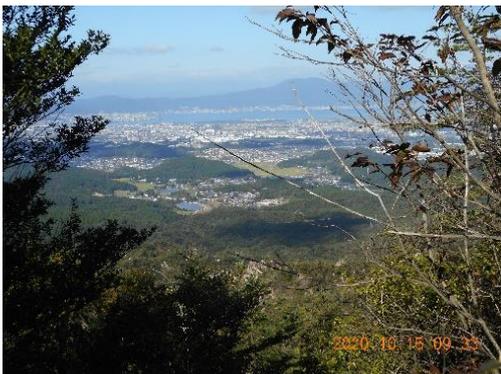
9:23 山道の脇の巨岩



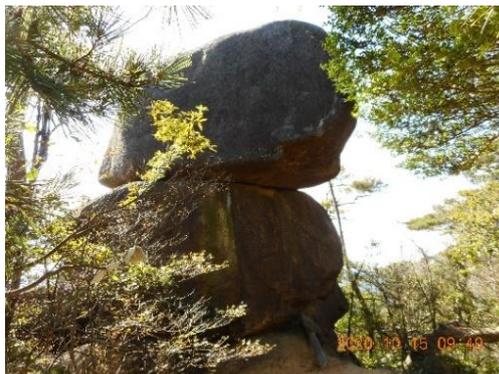
9:25 またも山道脇の巨岩



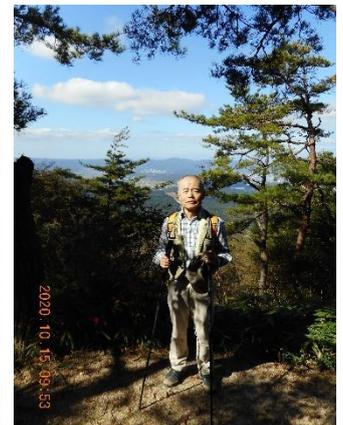
9:26 連なった巨岩



9:33 樹林の合間から琵琶湖と比叡山を望む



9:40 重ね岩/誰が重ねたのか、自然か天狗か



9:53 白石峰での筆者

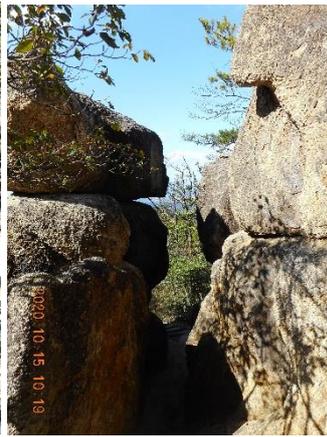
ざらざらして滑りそうな道を何度も上り・下りし、10:28 耳岩に着。天狗岩への標識板の所からいきなり急坂を下る。何ヶ所かロープで滑り下る道があった。先程樹林の合間から望んだ天狗岩はそれ程低い所とは思えなかったが、次々と登山者に出会うので、間違いないと下って行く。ゆるやかな坂道を上り・下りし、10:52 天狗岩と琵琶湖・比叡山の絶景。11:05 遂に感動の天狗岩に到達。登頂記念写真を撮影してもらい、晴天下の琵琶湖と比叡山などを眺めながら、持参のパン・みかん・チーズなどで昼食。



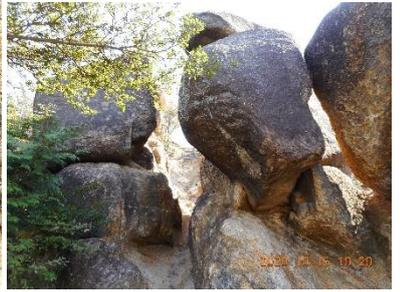
10:07 筆者には亀に見える奇岩



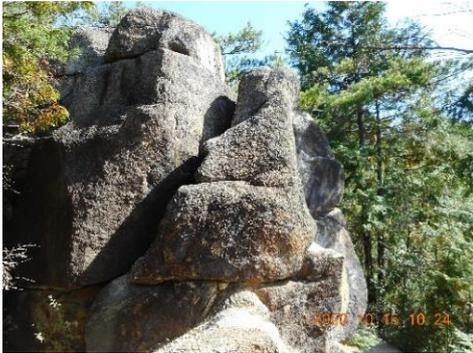
10:15 ロープで下り巨岩割れ目



10:19 巨岩に挟まれた山道



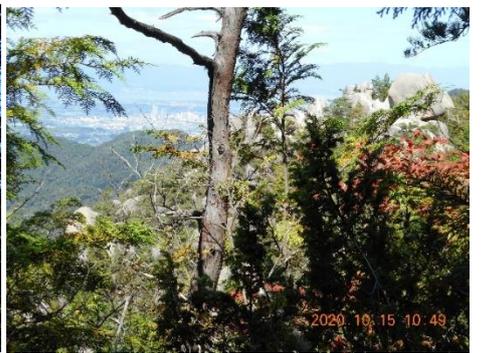
10:20 転がり落ちるのではと心配



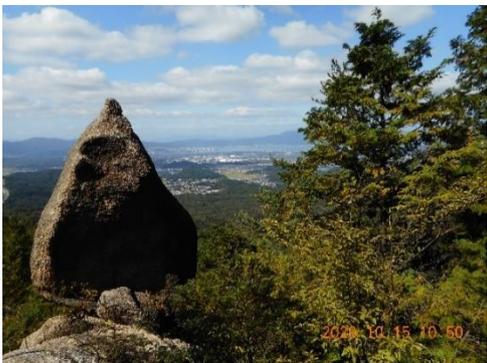
10:24 寄りそう巨岩/夫婦か親子のよう



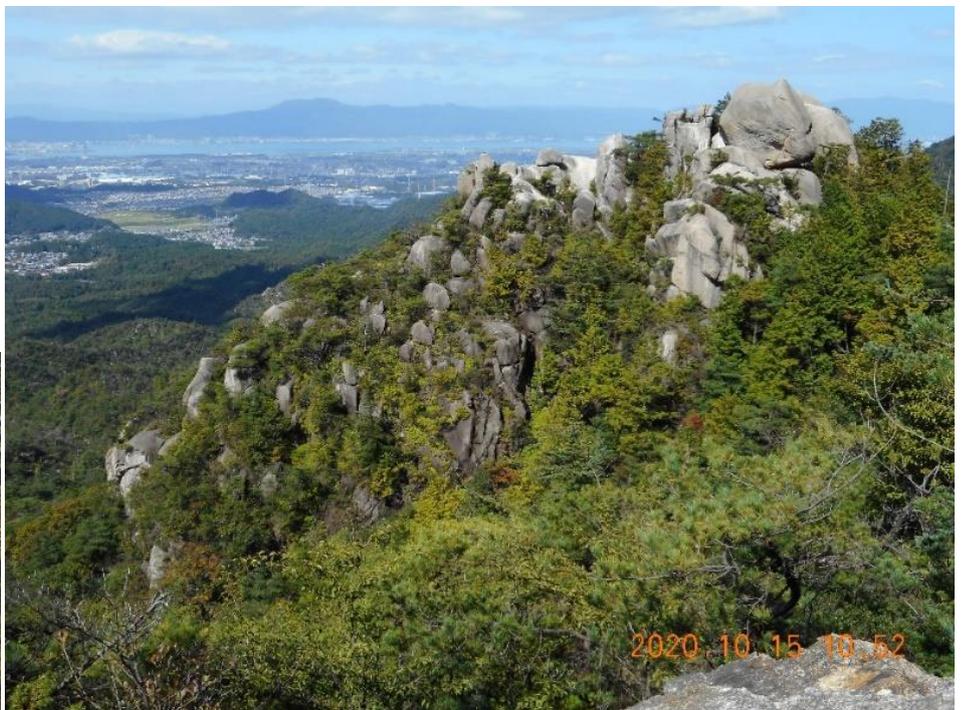
10:28 耳岩/筆者にはどの方向からも耳に見えず



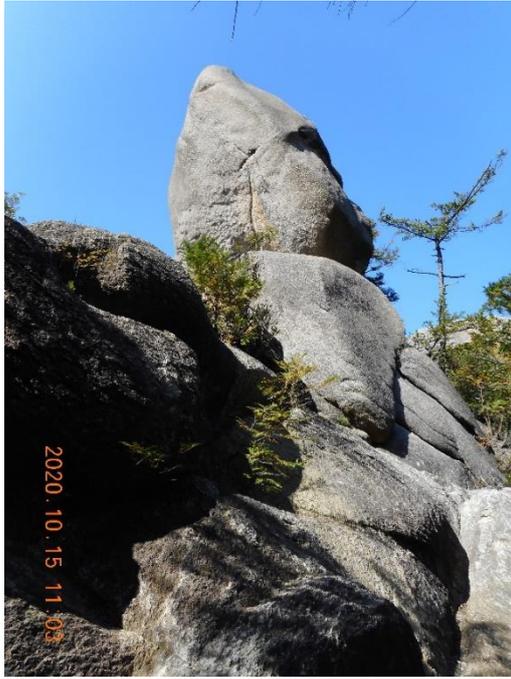
10:49 樹間に天狗岩(右)と琵琶湖(中央)



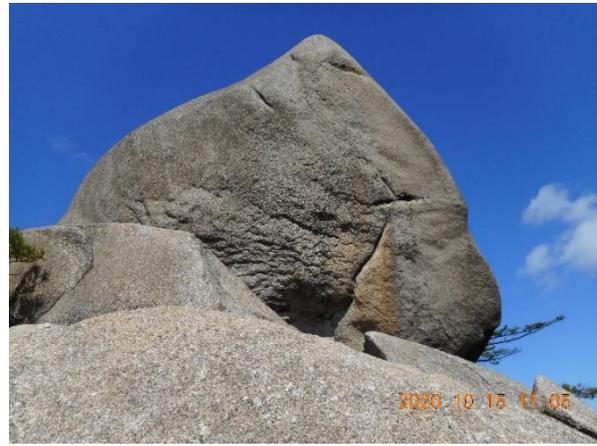
10:50 名もない三角錐岩と琵琶湖・比叡山



10:52 天狗岩付近の全貌と琵琶湖・比叡山



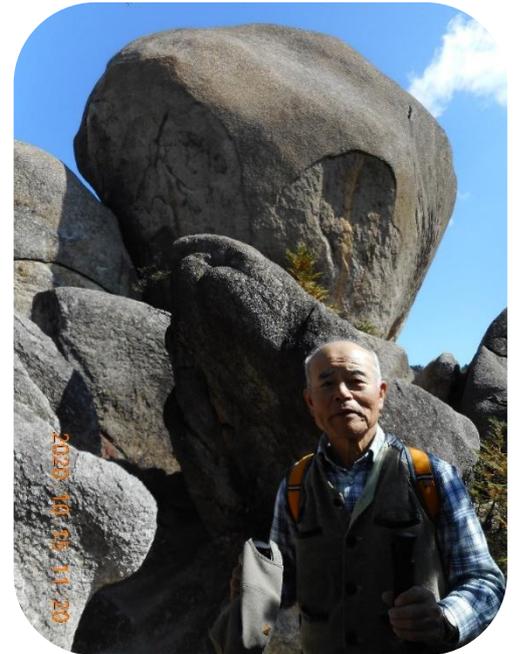
11:03 天狗岩の斜め横顔



11:05 天狗の正面顔



11:11 天狗岩からの絶景/琵琶湖畔の平野と琵琶湖・比叡山



11:20 天狗岩登頂記念写真/天狗の頭を背にして

金勝山リーフレットにハイキングマップとなっていたにしては厳しい山道を登ってきた達成感と清々しい心持の下、天狗岩から下山。写真を撮ってくれた人が先程天狗岩への岩場道でコーヒーを沸かしているのを見かけたが、振り返って見るとまだ座っている。また、筆者は恐ろしくて上らなかったが、2名が天狗の顔の横の岩に座っているのが見えた。12:45 耳岩。天狗岩線を進むことにした。度々ざらざら道で滑りそうになる上り・下り道が続く。何度かロープで滑って上り・下りして、景観を楽しみながら歩いた。14:09 天狗岩線尾根ルートと天狗岩への分岐点。いきなり何んと、急坂のクサリ場が現われ仰天。ハイキングマップに

尾根ルートというから、鼻歌まじりの山歩きだろうと思っていたら考えが甘かった。今さら水晶谷分岐点まで引き返すのも難儀なことと進むことに。クサリ場やロープ場を数回上り・下りしたが、撮影する気にもなれず、夢中で進んだ。14:42 大津宮林署の管理車道終点の表示板があり、舗装道路に出た。14:50 天狗岩尾根ルートとたまみずきの道と上桐生バス停への3差路分岐点。オランダえん堤の近くにある南無観世音菩薩不動明王の祠に手を合わせ、無事下山で来たことを報告・感謝。15:14 上桐生バス停。直ぐにバス停に置いたリュックサックを確認、そのままに置かれている。すさむに日本人の心はまだ大丈夫。新型コロナウイルス禍、登山マナーの悪いアジア系の人を一人も見かけなかったのも幸いしたのだろう。それにしても金勝山について、改めてネットで調べたが、どこにもあの険しい道、クサリ場のことはない。近江湖南アルプス自然休養管理運営協議会のリーフレットのハイキングの表現は改めるべき。裏面の高低・距離図には金勝山登山コースとなっているが、表面とマップのハイキングを登山に改めるべきである。

2名がコーヒーを沸かして飲んでいる



11:51 振返って天狗岩を望む

2名が天狗の顔の横の岩に座っている



12:55 巨岩がごろごろあるところから琵琶湖・比叡山を望む

新名神高速道路



13:23 落ちそうな岩と多数の岩が握られたような奇岩



13:35 龍王山 605m だろう



13:49 シダが茂る樹林帯を歩く



13:55 天狗岩線からの景観



13:56 天狗岩線からの琵琶湖・比叡山



14:09 天狗岩線尾根ルートと天狗岩への分岐



14:22 クサリ場を抜けたようでほっとした



14:50 三差路の標識



15:05 南無観音菩薩不動明王の祠



15:14 初秋を告げる上桐生バス停

15:30 発のバスに乗り、16:00 草津駅着。缶ビールとむすびで登頂成功を祝して一人乾杯。16:51 草津駅発、17:12 京都駅着。8 割位乗車の自由席新幹線のぞみ 38 号で 19:28 品川駅着。20:41 北習志野駅着、自宅へ。

以上、新型コロナウイルス禍、長年思い続けてきた伊吹山登山の実現、さらに厳しい登山となった金勝山を無事終えることが出来た。今後も新型コロナウイルスへの適切な対応、毎日の健康運動ばかりでなく、適量をバランスのある栄養を多くの品目でとる食事をし、決めた時刻の睡眠を続けることで、体力減少を抑制して有意義に過ごしたいものである。